

聖霊を遣わされる約束

(ヨハネ14・12〜17)

一、聖霊の働き

ペンテコステ一週前の礼拝なので、聖霊の働きについて、主イエス・キリストが語られた言葉に耳を傾けてまいります。16節をご覧ください。〈わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。〉と、神であり人となられた主イエスが語られました。〈父〉とはだれでしょうか。神です。創造主です。イスラエルに【主】として御自身をあらわされた神です。そのお方に、神であり人となられた主イエスが「父」と呼びかけられたわけですから、関係性を示しています。

イエス・キリストにとつて、そのお方は父であり、そのお方にとってイエス・キリストは「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」(マルコ1・11)というお方です。そして、主イエスの求めに応じて、父なる神が遣わされるお方がへもうひとりの助け主であり、17節では〈その方は、真理の御霊です〉と紹介されているお方です。すなわち、その方は聖霊であり、聖霊なる神です。

16節に戻りますが、ここで〈へもうひとりの助け主〉と紹介されている聖霊

は、イエスさまとは異なる別のお方ではなく、「アロス パラクレートス」なるお方、すなわちイエスさまと同質であるものの、自分とは別の助け主の意味です。そういうわけで、聖霊が何かを語られたということは、主イエス・キリストが語られたことであり、父なる神が語られたことでもあります。

旧約時代にあらわれられた主なる神も、イエス・キリストによってあらわされた父・子・聖霊なる神も同じお方です。ヨハネの福音書1章には〈この方(キリスト)は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。〉とあり、子なる神キリストが天地創造の業に参与しておられたと語られています。当然、そこには聖霊なる神も創造の業に参与されていきました。創世記1章に〈やみが大水の上にあり、神の霊が水の上を動いていた。神は仰せられた。「光があれ。」すると光があった。〉とあります。旧約の時代ですから、聖霊という表現はありませんが、聖霊なる神が共におられたと読むことができます。

二、新約時代の神

神は旧約の時代、すなわちイエス・キリストが現れられる前も、新約時代、すなわちイエス・キリストが現れられ後も同じお方です。ですが、神の働かれ方

が大きく変わりました。

第一は、御子イエス・キリストが私共に代わって、義なる神からの裁きを受けてくださったことです。そして、イエス・キリストが聖なる神と罪人である人間との仲介者となつてくださったという違いです。

第二は、聖霊なる神が弟子たち一人一人に降られたことです。旧約時代、神の霊は特定の王に降られました。神の代理人なる王に、神の御意思を取り次ぐ預言者に、礼拝の務めに仕える祭司にという具合です。しかし、預言者ヨエルは終りの時代について預言をされました。〈その後、わたしは、わたしの霊をすべての人に注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、年寄りは夢を見、若い男は幻を見る。その日、わたしは、しもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。〉(ヨエル2・28〜29)と。その預言の成就がペンテコステの日に始まりました。神の霊はすべての人に注がれています。すなわち聖霊がすべての人に注がれています。と言うことは、どんな人であつても「イエス・キリストの父なる神さま」と呼びかけるなら、その人に神は臨んでくださるということです。そういう時代に生かされています。

三、私の新生体験

私は19歳の時に、同盟キリスト教団

が主催する松原湖イングリッシュバイブルキャンプという青年集會に参加して、イエス・キリストにとらえられて新しく生まれ変わる体験をしました。すなわち、救われました。それから約一ヶ月間はたいへんでした。目に入るすべてのものが光り輝いて見えました。小坂忠さんが、〈♪目に映るものすべてが今までとは違う 歩きなれたこの通りでさえ ビルの谷間を行き交う見知らぬ顔も とても親しい人のようだ♪〉という賛美を作りましたが、まさしくそのとおりでした。

イエス・キリストを信じるなら、私たちは新しく生まれ変わります。それは体験としても味わい知るものです。主イエスはおっしゃいました。〈ヨハネ3・7〜8あなたがたは新しく生まれなければならぬ、とわたしは言ったことを不思議に思つてはなりません。風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によつて生まれる者もみな、そのとおりです。〉と。まさしくそのとおりです。

今日、私たちがイエス・キリストを知るのには、すなわち父・子・聖霊なる神を知るのには、聖霊なる神の働きによります。その経験を裏付けているのが、神の言葉である聖書と、みことばに伴う体験です。